

イチゴ‘まりひめ’の炭疽病対策

農業試験場 主任研究員 菱池政志

【要約】

本ほに定植後の株から得たランナー苗（秋ランナー苗）は炭疽病に感染しているリスクが低い。秋ランナー苗の採苗時期は11月下旬から12月で、展開葉3枚の子株を挿し芽し、親株側のランナーの切り口を水挿しする方法が適する。

【背景・ねらい】

和歌山県オリジナルイチゴ品種‘まりひめ’は炭疽病に極めて弱い。イチゴの育苗時期は炭疽病の発病好適時期と重なり、親株や子株の枯死による苗不足が問題となっている。対策として、健全な親株の利用が最重要となる。そこで、本研究では炭疽病感染リスクが低いと考えられる本ほ定植後の株からランナー苗を採り、翌年の親株とする秋ランナー育苗技術を確立する。

【成果の内容・特徴】

- 秋ランナー苗の採苗時期は11月下旬から12月で、展開葉3枚の子株を挿し芽し、親株側のランナーの切り口を水挿しする方法が適する（ポスター発表参照）。
- ‘まりひめ’では、 1.0×10^2 個/ml の分生子懸濁液の接種で炭疽病による枯死株が発生する（表1）。
- 11月から12月までのイチゴ炭疽病菌潜在感染株への頭上かん水による飛散水中の分生子濃度は最高で2.7 個/ml で（表2）、‘まりひめ’に炭疽病菌が感染するほどの分生子濃度は検出されない。
- 潜在感染株から発生したランナー苗に炭疽病の発病は認められない。
- 秋ランナー採苗において、炭疽病の潜在感染株が含まれる可能性は低い。

表1 イチゴ炭疽病菌接種源の分生子濃度と枯死株発生率の関係

接種源濃度 (個/ml)	調査日										
	6/14	6/17	6/19	6/21	6/24	7/1	7/3	7/8	7/11	7/19	7/25
1.0×10^2	0	0	0	0	0	0	20	20	20	40	40
1.0×10^3	0	0	20	40	40	60	60	60	80	100	100
1.0×10^4	0	0	60	60	60	80	80	80	80	100	100

※湿室時間: 48h

※接種日: 2024年6月6日

表2 イチゴ炭疽病菌潜在感染株への頭上かん水による飛散水中の分生子濃度

飛散水採集日	11/14	11/18	11/21	11/25	11/28	12/2	12/5	12/9	12/12	12/20
分生子濃度 (個/ml)	0	0.7	0	0	2.7	1.3	0	0	0	0